

# 学生アンケート

## 結果概要

2006年2月

ルーテル学院大学

# 目 次

． 調 査 の 趣 旨 と 対 象 者	1
1 ． 調 査 の 趣 旨	1
2 ． 調 査 の 方 法	1
3 ． 調 査 の 内 容	1
4 ． 回 答 数 、 回 答 者 の 基 本 属 性 な ど	2
． 調 査 結 果 の 概 要	4
1 ． い ま ま ま で 受 け た 授 業 の 中 で 、 と て も 興 味 深 い 授 業 だ っ た 科 目 、 最 も つ ま ら な い 授 業 だ っ た 科 目	4
2 ． い ま ま ま で 受 け た 授 業 の 中 で 、 新 し い 知 識 ・ 技 能 の 習 得 に 役 立 っ た 科 目	5
3 ． 進 路 を 考 え る の に 役 立 っ た 科 目	7
4 ． 満 足 度 が 高 か っ た 科 目	7
5 ． 授 業 内 容 を 超 え て 自 主 的 に 勉 強 す る こ と に 刺 激 を 与 え た り 、 示 唆 を 与 え た と 思 う 科 目	8
6 ． 一 人 一 人 を 大 切 に す る 教 育 を 最 も 実 践 し て い る と 思 う 科 目	9
7 ． 「 一 人 一 人 を 大 切 に す る 教 育 」 を 実 践 す る に 当 た り 、 具 体 的 に 取 り 組 み べ き こ と ( 自 由 回 答 )	10
8 ． ル ー テ ル 学 院 大 学 の 授 業 に つ い て の 意 見	12
9 ． 学 生 が 考 え る よ い 授 業 と は ど ん な 授 業 か	18
10 ． 授 業 に 対 す る 学 生 の 取 り 組 み	19
11 ． 実 習 に つ い て	21
12 ． 授 業 内 容 に つ い て の 不 満 、 改 善 す べ き 点 ( 自 由 回 答 )	22
13 ． こ う す れ ば ル ー テ ル 学 院 大 学 は よ く な る と い う 提 案 ( 自 由 回 答 )	24
あ と が き	27

## . 調査の趣旨と対象者

### 1 . 調査の趣旨

今回で2回目となるこの学生アンケートは、前回と同様に学生・院生の声に耳を傾け、授業の内容・教え方などの改善や、今後の大学運営に生かすことを目的として実施した。可能な限り率直な意見を聞くために完全な匿名方式で実施した。

### 2 . 調査の方法

アンケート用紙を、学部学生並びに大学院博士前期課程・修士課程の院生全員のメールボックスに配布し、期日までにメールボックス横に設置した「アンケート」提出箱に入れてもらうよう依頼した。なお、郵送も受け付けることとしたが、実際に郵送されたものはなかった。博士後期課程の院生を調査対象から外した理由は、母数が少なく匿名性になじまないことと、質問項目が博士後期課程のカリキュラムと一致していないためである。

### 3 . 調査の内容

以下に列記するような科目について、それぞれ複数回答で記入を求めた。

- \* とても興味深い授業だった科目
- \* 最もつまらない授業だった科目
- \* 新しい知識・技能の習得に役立ったと感じた科目
- \* 将来の進路を考えるのに役立ったと感じた科目
- \* 全体的な満足度が最も高かった科目
- \* 全体的な満足度が最も低かった科目
- \* 授業内容を超えて自主的に勉強することに刺激を与えたり、示唆を与えたと思う科目
- \* ルーテル学院大学の目標である「一人ひとりを大切にせる教育」を最も実践していると思う科目

本学が「一人ひとりを大切にせる教育」を実現するに当たり、具体的にどんな取り組みをすべきだと思うか（自由記述、複数回答可）

ルーテル学院大学の授業について

- \* 全体として、講義要項に沿って進行しているか
- \* 授業の開始・終了時間は、全体として守られているか
- \* 全体として理解が深まるように工夫されているか
- \* テキスト、配付資料は全体として役立っているか
- \* 休講や教室変更などの情報伝達、欠席した際の資料の事後配布などのフォローは充分か
- \* ルーテル学院大学の授業に全体として満足しているか
- \* ルーテル学院大学では「一人ひとりを大切にせる教育」を目標としているが、授業を受けていてそのように思うか。
- \* ルーテル学院大学の教員は全体として授業に熱心だと思うか。

\* よい授業とは、どのような授業か。

授業に対する学生の取り組みについて

- \* 予習、復習など必要な準備をしているか
- \* どのくらい出席しているか
- \* 授業への取り組みについての自己採点

授業内容についての不満、改善すべきだと思う点（自由記述、複数回答可）

こうすればルーテル学院大学はよくなるということがあれば、授業内容・要望も含めて自由に記入されたい。（自由記述、複数回答可）

社会福祉実習について（総合人間学部社会福祉学科の学生のみ記入を依頼）  
フェイスシート 所属、学年、性別

#### 4. 回答数、回答者の基本属性など

##### 回答数

総数 134 （調査対象学生数512名の25.2%）

回答者の数は、調査担当者が周知と回収に熱心に努力したにもかかわらず、調査対象学生数のわずかに25.2%しかなかった。前回の15.2%と比べればかなり高い回答であるが、いろいろと工夫したにもかかわらず、依然として回答率は低い。その理由としては、後期授業期間末の時期に当たり、落ち着かない時期であったこと、またこの年齢の若者にかなり共通の、いわゆる「さめた」気分の学生が多く、あえて意見や希望をアンケートに記入し表明するほどの不満もなければ、また実現したいと思う要求もないためではないか、と思われる。

上に説明したように、この調査における回答者は無作為に抽出されたものではない。しかも回答率が3割に満たないので、この調査結果が、本学学生の意見や態度を正確に反映しているということとはできない。しかし、大学にとって好意的な意見にせよ、あるいはきびしく改善をもとめるような意見にせよ、とにかくそのような意見を持つ学生が相当数いるということを示していることは明らかである。

##### 基本属性

##### ア. 所属別回答者数など

学生数の多い総合人間学部社会福祉学科の回答者が人数では最も圧倒的に多い。それ以外の学科や専攻の回答はいずれも一桁台にとどまった。所属別回答率では、大学院臨床心理学専攻の率が断然高いが、学部では社会福祉学科の回答率が高かった。

表1. 回答者の所属

所属	回答数	%	学科人員	所属別回答率
総合人間学部キリスト教学科	6	4.7	31	19.4
総合人間学部社会福祉学科	103	79.8	383	26.9
総合人間学部臨床心理学科	9	7.0	54	16.7
大学院社会福祉専攻博士前期課程	3	2.3	34	8.8
大学院臨床心理学専攻修士課程	8	6.2	10	80.0
合計	129	100.0	512	25.2
無回答	5			1.0

##### イ. 学年別回答者数など

学年別の回答率では、大学院を除くと学部3年生、学部4年生、学部2年生、学部1年生の順に低くなっている。

表2. 回答者の学年

	回答数	%	学年別人員	学年別回答率
学部1年生	16	12.4	126	12.7
学部2年生	31	24.0	113	27.4
学部3年生	36	27.9	110	32.7
学部4年生	35	27.1	119	29.4
大学院1年生	9	7.0	24	37.5

大学院2年生	2	1.6	20	10.0
合計	129	100.0	512	25.2
無記入	5			1.0

#### ウ．回答者の性別

本学の学生の圧倒的多数は女性であるから、当然女性の回答者が断然多く76%をしめる。性別回答率でも女性の方が高く、男性の16%に対して女性は29%の回答率であった。

表3．回答者の性別

	回答数	%	性別在籍数	性別回答率
男性	30	23.8	184	16.3
女性	96	76.2	328	29.3
合計	126	100.0	512	24.6
無記入	8			1.6

## ・ 調 査 結 果 の 概 要

### 1 . いままで受けた授業の中で、とても興味深い授業だった科目、最もつまらない授業だった科目

#### とても興味深かった科目

まず学生がいままで受けた授業の中で、とても興味深い授業だった、と思う科目を複数回答可（回答数の制限なし）で、答えてもらった。最多で16科目を列記した学生があった。

以下に、3人以上の学生から、「とても興味深い授業だった」とされた科目を列記する。学生が科目名として記入したものの中には、不正確だったり、どの科目を指すのかよく分からない場合が少なくなかった。また所属学科によって科目名に違いがあることもあって、そのため、学生の記入にしたがって分類集計せざるを得なかった。そのため正確な科目名にはない分類項目があることをお断りしておきたい。

また回答人数の多い科目が、学部社会福祉学科に集中しているが、これは表1の「回答者の所属」に示されているように、回答者の79.8%が社会福祉学科の学生のためである。このことは後に続く項についてもまったく同様である。換言すれば社会福祉学科の科目以外では、3, 4人程度の学生が選択した科目でも、大きな意味をもっていることに留意されたい。

(人数)	(科目名)
19	社会福祉原論
19	精神保健福祉の諸問題
18	社会学
14	ターミナルケアとグリーフワーク
12	SST
12	児童福祉
12	老人福祉論
10	フレッシュマンゼミ
9	スーパービジョン
9	グループワーク
9	実習 + 社会福祉援助技術現場実習
7	ソーシャル・ワーク
6	カウンセリング理論
6	キリスト教と人間観
6	コンピューター入門
6	キリスト教と生命倫理
6	社会福祉とキリスト教
6	社会福祉基礎演習
6	精神科リハビリテーション
5	家族福祉論
5	精神保健学
4	医療福祉論
4	障害者福祉の諸問題

4	聴覚障害者のコミュニケーション
4	心理療法
4	人間関係論
4	生命進化
4	聖書入門
3	ケースワーク
3	カウンセリングの実技の基本
3	音楽の基礎
3	介護概論
3	教義学概論
3	憲法
3	平和学
3	交流分析
3	社会問題と社会福祉
3	老人福祉の諸問題
3	心理学研究法
3	心理検査技法
3	人格心理学特論
3	発達心理学
3	精神保健福祉援助技術各論
3	人間・いのち・世界
3	英語 Speaking/Listening
<hr/>	
3人以上選択科目の合計	45科目

なお、上記の科目に加えて、2人の選択のあった科目が32、1人の選択のあった科目が56、合計して133科目が「興味深い科目」としてあげられた。

前項と対比して、**最もつまらない授業だったと思う科目**を、同じく複数回答で答えてもらった。個々の科目名のリストアップは省略し、科目数だけを報告すると、合計で64科目が該当するとして指摘された。興味深い科目としてあげられた科目数の半以下である。全体としては、興味深い科目の方が遙かに多いということになる。また、つまらない授業としてあげられた科目は、少数の科目に集中する傾向があった。なお、興味深い科目として多くの学生によって選択された科目の中に、3人以上の学生によってつまらなかった科目として選択されたものがかなりあり、学生によって評価が反対になる科目が相当数あることがわかった。

#### この項のまとめ

大学としては、全体として興味深い科目が多かったという結果に満足せず、つまらなかったと指摘する学生の多かった科目について個別に慎重に検討し、必要な対策を講じたいと考えている。

## 2. いままで受けた授業の中で、新しい知識・技能の習得に役立った科目

これまで受けた授業の中で、新しい知識・技能の習得に役立ったと感じた科目を複数回答可(回答数の制限なし)で答えてもらった。

(人数)	(科目)
19	社会福祉基礎演習
18	社会福祉原論
18	S S T
17	コンピューター入門
16	精神保健福祉の諸問題
15	グループワーク
15	実習 + 社会福祉援助技術実習
12	スーパービジョン
11	ソーシャル・ワーク
10	社会福祉援助技術総論
9	ターミナルケアとグリーフワーク
8	児童福祉
8	フレッシュマンゼミ
6	老人福祉論
6	精神科リハビリテーション
6	憲法
5	社会学
5	精神医学
5	心理療法 ( S S T )
5	基礎演習
5	公的扶助
4	人間関係論
4	社会保障論
4	社会福祉援助技術各論
4	医療福祉論
3	英語 reading
3	カウンセリング実技の基本
3	カウンセリング理論
3	海と森の生物
3	聴覚障害者のコミュニケーション
3	臨床心理基礎演習
3	介護概論
3	社会問題と社会福祉
3	集団療法特講
3	障害者福祉の諸問題
3	心理学
<hr/>	
	3人以上選択科目の合計                      36科目

上記のほか、2人の選択のあった科目が20、1人の選択のあった科目が61、合計して117科目が、「新しい知識・技能の習得に役立つ科目」としてあげられた。

### 3. 進路を考えるのに役立つ科目

これまで受けた授業のうち、進路を考えるのに役立つと思われる科目を、複数回答可（回答数制限なし）で、答えてもらった。

(人数)	(科目)
31	実習 + 社会福祉援助技術現場実習
17	フレッシュマンゼミ
15	児童福祉
8	社会福祉原論
8	社会福祉基礎演習
4	基礎演習
7	精神保健福祉の諸問題
7	グループワーク
6	老人福祉の実際
5	ターミナルケアとグリーフワーク
5	医療福祉論
5	精神科リハビリテーション
5	老人福祉論
4	精神保健学
4	社会問題と社会福祉
4	公的扶助
3	家族福祉論
3	発達心理学
3	卒業ゼミ（高齢者）
3	ゼミ
3	SST
3	カウンセリング理論
3	スーパービジョン
3	社会福祉援助技術各論
<hr/>	
3人以上選択科目の合計	24科目

上記のほか、2人の選択のあった科目が12、1人の選択のあった科目が44、合計80科目が「進路を考えるのに役立つ科目」としてあげられた。

### 4. 満足度が高かった科目

これまで受けた授業の中で、全体的な満足度が最も高かった科目を複数回答可（回答数制限なし）で、答えてもらった。

(人数)	(科目)
14	社会福祉原論
14	精神保健福祉の諸問題
12	フレッシュマンゼミ
9	社会福祉基礎演習

8	老人福祉論
7	社会学
7	実習 + 社会福祉援助技術現場実習
6	ターミナルケアとグリーフワーク
6	社会問題と社会福祉
5	コンピューター入門
5	スーパービジョン
4	カウンセリング理論
4	グループワーク
4	ソーシャル・ワーク
3	S S T
3	スポーツと健康
3	ゼミ、もしくは演習とのみ記した回答
3	基礎演習
3	教義学概説
3	社会福祉援助技術各論
3	牧会カウンセリング

---

3人以上選択科目の合計

21科目

上記のほか、2人の選択のあった科目が27、1人の選択のあった科目が49、合計97科目が「全体として満足度が高かった科目」としてあげられた。

前項と対比して、**全体的な満足度が最も低かった科目を**、同じく複数回答（回答数制限なし）であげてもらった。該当するとして指摘された科目数は、前項と比べると少なく合計72科目であった。他の項目の結果からもわかるように、本学のカリキュラムについて全体的には学生の満足度は高いと考えてよいであろう。

この項のまとめ

大学としては、全体として満足度が高い科目が多かったという結果に満足せず、満足度が低かったと指摘する学生の多かった科目のそれぞれについて、今後慎重に検討し、対策をとる必要があると考えている。

## 5. 授業内容を超えて自主的に勉強することに刺激を与えたり、示唆を与えたと思う科目

これまでと同じく、授業内容を超えて自主的に勉強することに刺激を与えたり、示唆を与えたと思う科目を複数回答（回答数制限なし）で答えてもらった。

(人数)	(科目名)
20	フレッシュマンゼミ
20	実習 + 社会福祉援助技術現場実習
13	精神保健福祉の諸問題
8	社会福祉基礎演習
6	児童福祉論
6	卒業ゼミ（高齢者）

5	発達心理学
5	心理療法（SST）
5	障害者福祉の諸問題
4	SST
4	ゼミ
4	旧約聖書
4	憲法
4	社会福祉原論
4	社会保障論
4	総論（おそらく社会福祉援助技術総論）
3	社会問題と社会福祉
3	スーパービジョン
3	聴覚障害者のコミュニケーション
3	基礎演習
3	国際関係論
3	国際社会福祉概説
3	精神保健福祉援助実習
3	臨床心理基礎演習

---

3人以上選択科目の合計      24科目

上記のほか、2人の選択のあった科目が17、1人の選択のあった科目が51、合計92科目であった。

## 6. 一人ひとりを大切にする教育を最も実践していると思う科目

ルーテル学院大学の目標である「一人ひとりを大切にする教育」を最も実践していると思う科目を、これまでと同じく複数回答（回答数制限なし）で、答えてもらった。

（人数）	（科目名）
27	実習 + 社会福祉援助技術実習
17	フレッシュマンゼミ
12	SST
11	社会福祉原論
11	ゼミ、もしくは演習とのみ記入した回答
10	精神保健福祉の諸問題
7	英語 speaking/listening
6	グループワーク
6	コンピューター入門
5	老人福祉論
5	キリスト教と人間観
5	英語 reading
4	社会問題と社会福祉
4	卒業ゼミ（高齢者）
3	児童福祉
3	人間関係論

上記のほか、2人の選択のあった科目が6、1人の選択のあった科目が34あり、全体として57科目が「一人ひとりを大切にする教育」を最も実践しているとしてあげられた。

## 7. 「一人ひとりを大切にする教育」を実践するに当たり、具体的に取り組みべきこと（自由記述回答、複数回答可）

このことについての各学生の提言を自由に答えてもらった。以下にその回答を列記する。なお類似の提案は一つにまとめ、あまりにも当たり前の回答は省略した。また、この質問に直接関係のない意見がかかれている場合もここで取り上げたので、内容にかなりばらつきがあることをお断りしておく。

### <クラスの規模、授業の進め方などについての意見>

- \* 履修者の多い科目は、必要に応じて二つに分けるなどの工夫をして欲しい。
- \* 参加型の授業をふやす。また授業のなかで、できるだけ学生の意見、発言を求めるようにして欲しい。
- \* 集中して授業に望めるように、教室の座席の間隔に十分余裕を持たせて欲しい。
- \* グループ発表を活用して欲しい。
- \* 提出したレポートにコメントを付けて返却して欲しい。
- \* 講義形式の授業でも、学生一人ひとりに語りかけるような内容にして欲しい。
- \* 講義科目でも、できるだけロールプレイやグループ討議をとりいれて、学生一人ひとりに自ら考える時間を持たせるようにして欲しい。
- \* 学生のニーズを十分に把握して欲しい。教員の満足だけで終わってしまっている授業が少なくない。
- \* 個別的な対応が不十分だ。たとえば実習指導では、担当講師が非常勤だったこともあって、時間が足りなくて十分に指導を受けることができなかった。
- \* コンピューター入門の授業の場合、すべて一斉にやるのではなく、進みが早い人はどんどん進めさせ、遅い人にはきちんと説明しながらやるようにして欲しい。
- \* 講義科目でも、必要に応じて、学生間で話し合えるような機会を設けて欲しい。
- \* 教員が学生に意見の発表を求めるときには、どんな答えであっても、とにかく受け止めるようにして欲しい。
- \* 授業をどんどん進めるだけでなく、学生がゆっくり考える時間を与えて欲しい。
- \* テストよりもレポートを重視するようにして欲しい。テストは画一的だと思う。
- \* 専門用語ばかりをずらりと並べる授業は困る。非常勤講師に多い。
- \* 教員は学生の意見をもっと尊重して欲しい。臨床心理学科は、新設のためか教育に対する余裕がないように思われる。
- \* 成績評価を透明にして欲しい。添削したテストを返却するとか、あるいは採点済みの答案を希望に応じて公開するなどのシステムを作るべきだ。
- \* 教員がクリスチャンであったとしても、授業内容を信仰に偏ったものとしなくて欲しい。課題はノンクリスチャンのものでも理解可能なものとして欲しい。
- \* 学生に対しては公平に接するとともに、もっと自由を認めて欲しい。
- \* 授業時間中の私語を厳しく禁止して欲しい。

#### < 時間割の編成などについて >

- \* 学生のニーズは多様である。たとえば教職関係の科目をもっと履修しやすいようにして欲しい。いまのままでは北欧研修に参加できない。
- \* 教職課程の履修と社会福祉士受験の両方を目指している学生のために、時間割の編成を工夫してほしい。
- \* 卒業演習ゼミでは全員が希望するゼミを履修できるようにして欲しい。大学の最終年次に自分が深めたいと思う授業をとれないのは残念だ。
- \* ゼミをもっと多分野に分けて欲しい。

#### < サポートや相談の体制の整備について >

- \* 進路や悩みについて、気軽に相談できるようにするために、学生一人ひとりに年間の担当教員をきめて各種の相談にゆけるようなシステムを作って欲しい。全部の学生が自ら相談にゆけるとは限らない。相談月間のようなものを設けて、すべての学生が、教員と相談するような体制がほしい。
- \* 教員と個別に話す機会をもっとほしい。多くの教員は、会いたくてもなかなか連絡が取れない。
- \* 一人ひとりの学生のニーズにあわせたサポートの体制をつくってほしい。
- \* 自分の話しやすい先生やスタッフとの個人的な相談がスムーズに行えるような体制の整備。
- \* 孤立している学生に、よりきめこまかな配慮をお願いしたい。

#### < 就職や進路の相談について >

- \* 実習も大切だが、就職活動の援助にも力を入れて欲しい。
- \* 将来、社会福祉に進むかどうか決めていない学生もいると思う。そういう学生の相談にも応じるようにして欲しい。また一般企業への就職の援助にも力を入れて欲しい。
- \* 進路をきめるための援助として、社会福祉の各種の仕事についての解説の時間を設けて欲しい。

#### < その他の意見、希望 >

- \* 学生の名前を間違えないで欲しい。珍しい名前の場合には事前に確認しておくべきだ。
- \* 教員全員が、一人ひとりを大切にする教育について、具体的なイメージをもって努力して欲しい。
- \* 実習担当の先生を、分野の中から自分で選べるようにして欲しい。
- \* 各教員がいつ大学に来ているか、分かるようにして欲しい。(気軽に質問したり、相談できるようにするために)
- \* 単位取得に関する相談にもっと力を入れて欲しい。
- \* 教員の第三者、あるいは学生による評価の仕組みが必要だと思う。
- \* 教員と事務局の連携をスムーズにして欲しい。
- \* ゼミで学生の発表資料のコピーを作る際の費用を大学側で負担するようにして欲しい。
- \* 個人的な政治信条を押しついたり、学生の人身攻撃をするような非常勤講師を依頼するのは止めて欲しい。
- \* 「3年生には授業を抜け出すものが多い」とよく言う教員がいるが、抜け出していない学生に言うのはいかなものか、一人ひとりを大切にする方針に反すると思う。
- \* 教員は学生一人ひとりをよく知り、温かく見守って欲しい。
- \* 実習先の選択で、強制的に他の場所に配属するのは止めてもらいたい。
- \* 教員に自分の名前を覚えてもらおうと、授業以外でも信頼感が生まれる。
- \* 学生と先生が近いのはもちろんのこと、学生同士の結びつきが近くなることが何より大切だと思う。

- \* 教員と学生とのスムーズなコミュニケーションを大切にする雰囲気づくり。加えて、教務課や学生課との間のコミュニケーションの円滑化にも配慮して欲しい。
- \* 資格を取るかどうか、いくつとるかは学生の自由にまかせて欲しい。また学芸員や教職用の履修の本が別になっているのは、学生の進路を狭くしているように思われる。
- \* 大学院における教育なので、教員には、学生の自主性や人間性を尊重し、上からものを教えるようなものの言い方でなく、共に考える姿勢が欲しい。小さな子どもを叱るようなヒステリックな指導の仕方は年齢に関係なく、学生に対して失礼だと思う。上からコントロールしようとする姿勢をやめ、共に学問を築こうとしている学生に対する尊敬の態度を持ち、学生の話をよく聞く姿勢が欲しい。
- \* 今のままで十分である。(多数あり)

## 8. ルーテル学院大学の授業についての意見

### 全体として講義要項に沿って進行しているか

用いられた質問文と選択肢は以下の通りである。

「ルーテル学院大学の授業は、全体として講義要項に沿って進行していますか。

1. ほとんど沿っている
2. だいたい沿っている
3. あまり沿っていない
4. 全く沿っていない

この項目での学生の評価は、肯定的な回答が9割あまりをしめている。

表4. 講義要項に沿っているか

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	講義要項に沿っているか				合計
	ほとんど沿っている	だいたい沿っている	あまり沿っていない	全く沿っていない	
総合人間学部 キリスト教学科	1 20.0	3 60.0	0 .0	1 20.0	5 100.0
総合人間学部 社会福祉学科	18 17.6	73 71.6	11 10.8	0 .0	102 100.0
総合人間学部 臨床心理学科	1 11.1	7 77.8	1 11.1	0 .0	9 100.0
大学院社会福祉 学専攻前期課程	1 33.3	2 66.6	0 .0	0 .0	3 100.0
大学院臨床心理 学専攻修士課程	0 .0	5 62.5	3 37.5	0 .0	8 100.0
合計	21 16.5	90 70.9	15 11.8	1 0.8	127 100.0

### 授業の開始、終了時間

用いられた質問文と選択肢は以下の通りである。

「授業の開始・終了時間は、全体として守られていますか」

- 1．毎回守られている
- 2．だいたい守られている
- 3．あまり守られていない
- 4．全く守られていない

授業の開始、終了時間についての学生の評価は非常によく、肯定的な回答が9割以上をしめている。

表5．授業の開始・終了時間

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	開始・終了時間				合計
	毎回守られている	だいたい守られている	あまり守られていない	全く守られていない	
総合人間学部 キリスト教学科	1 16.7	3 50.0	1 16.7	1 16.7	6 100.0
総合人間学部 社会福祉学科	11 10.7	83 80.6	9 8.7	0 .0	103 100.0
総合人間学部 臨床心理学科	1 11.1	7 77.7	1 11.1	0 .0	9 100.0
大学院社会福祉 学専攻前期課程	0 0.0	3 100.0	0 .0	0 .0	3 100.0
大学院臨床心理 学専攻修士課程	3 37.5	5 62.5	0 .0	0 .0	8 100.0
合計	16 12.4	101 78.3	11 8.5	1 0.8	129 100.0

### 理解が深まるよう工夫されているか

用いられた質問文と選択肢は以下の通りである。

「ルーテル学院大学の授業は、全体として理解が深まるように工夫されていると思いますか」

- 1．非常にそう思う
- 2．まあまあそう思う
- 3．あまりそうは思わない
- 4．全くそうは思わない

授業が理解しやすいように工夫されているかどうかについての学生の評価は全般的に高く、肯定的な回答が約85%である。

表6．理解しやすい工夫

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	理解しやすい工夫				合計
	非常に思う	まあまあ思う	あまりそうは思わない	全くそうは思わない	
総合人間学部 キリスト教学科	4 66.7	1 16.7	1 16.7	0 .0	6 100.0
総合人間学部 社会福祉学科	20 19.4	69 67.0	13 12.6	1 1.0	103 100.0
総合人間学部 臨床心理学科	1 11.1	4 44.4	4 44.4	0 .0	9 100.0
大学院社会福祉 学専攻前期課程	0 .0	3 100.0	0 .0	0 .0	3 100.0
大学院臨床心理 学専攻修士課程	2 25.0	5 62.5	1 12.5	0 .0	8 100.0
合計	27 20.9	82 63.6	19 14.7	1 0.8	129 100.0

**テキスト、配付資料について**

用いられた質問文と選択肢は以下の通りである。

「授業のテキスト、配付資料は、全体として役に立っていますか」

- 1．たいへん役立っている
- 2．まあまあ役立っている
- 3．あまり役立っていない
- 4．全く役立っていない

この項目でも学生の評価は非常に高く、肯定的な回答が9割を超える。

表7．テキスト・配付資料

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	テキスト・配付資料				合計
	たいへん役立っている	まあまあ役立っている	あまり役立っていない	全く役立っていない	
総合人間学部 キリスト教学科	4 66.7	1 16.7	1 16.7	0 .0	6 100.0
総合人間学部 社会福祉学科	40 39.6	53 52.5	7 6.9	1 1.0	101 100.0
総合人間学部 臨床心理学科	0 .0	8 88.9	1 1.1	0 .0	9 100.0
大学院社会福祉 学専攻前期課程	1 33.3	2 66.6	0 .0	0 .0	3 100.0
大学院臨床心理 学専攻修士課程	3 37.5	5 62.5	0 .0	0 .0	8 100.0

	48	69	9	1	127
合計	37.8	54.3	7.1	0.8	100.0

### 情報伝達、フォローについて

用いられた質問と選択肢は以下の通りである。

「休講や教室変更等の情報伝達、欠席した際の資料の事後配布などのフォローは充分ですか」

- 1．充分である
- 2．まあまあである
- 3．あまりよくない
- 4．不十分である

他の項目と比べると、この項目についての学生の評価はよくない。「あまりよくない+不十分である」が、6割近くもある。所属別でも同じ傾向が見られる。なおこの項目での質問文には、調査企画の際の不注意で、二つの事項が含まれてしまい、学生がどちらについて不満なのかが不明で、これ以上の分析ができない。

表8．情報伝達・フォロー

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	情報伝達・フォロー				合計
	充分である	まあまあである	あまりよくない	不十分である	
総合人間学部 キリスト教学科	0 .0	3 50.0	1 16.7	2 33.3	6 100.0
総合人間学部 社会福祉学科	10 10.0	35 35.0	38 38.0	17 17.0	100 100.0
総合人間学部 臨床心理学科	1 11.1	1 11.1	5 55.6	2 22.2	9 100.0
大学院社会福祉 学専攻前期課程	0 .0	1 33.3	2 66.6	0 .0	3 100.0
大学院臨床心理 学専攻修士課程	1 12.5	2 25.0	4 50.0	1 12.5	8 100.0
合計	12 9.5	42 33.3	50 39.7	22 17.5	126 100.0

### 授業への満足度

用いられた質問文と選択肢は以下の通りである。

「あなたはルーテル学院大学の授業に全体として満足していますか」

- 1．満足である
- 2．まあまあ満足である
- 3．あまり満足していない
- 4．不満である

この項目での学生の評価は非常に高く、全体として88%が肯定的に評価している。

表9．授業への満足

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	授業への満足				合計
	満足である	まあまあ満足である	あまり満足していない	不満である	
総合人間学部 キリスト教学科	4 66.6	2 33.3	0 .0	0 .0	6 100.0
総合人間学部 社会福祉学科	32 31.1	61 59.2	8 7.8	2 1.9	103 100.0
総合人間学部 臨床心理学科	1 11.1	5 55.6	3 33.3	0 .0	9 100.0
大学院社会福祉 学専攻前期課程	0 .0	3 100.0	0 .0	0 .0	3 100.0
大学院臨床心理 学専攻修士課程	4 50.0	2 25.0	2 25.0	0 .0	8 100.0
合計	41 31.8	73 56.6	13 10.1	2 1.6	129 100.0

#### 一人ひとりを大切にする教育について

用いられた質問文と選択肢は以下の通りである。

「ルーテル学院大学は『一人ひとりを大切にする教育』を目標として掲げていますが、皆さんは授業を受けていて、そのように思いますか」

- 1．非常にそう思う
- 2．まあまあそう思う
- 3．あまりそうは思わない
- 4．全くそうは思わない

ルーテル学院大学が非常に力を入れているこの項目でも、学生の評価は高く、肯定的な回答が約7割である。しかしごく少数ではあるが、社会福祉学科に「全くそうは思わない」と回答したものが5名いるのは留意すべきである。

表10．一人ひとりを大切にする教育

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	一人ひとりを大切にする教育				合計
	非常にそう思う	まあまあそう思う	あまりそうは思わない	全くそうは思わない	
総合人間学部キ リスト教学科	3 50.0	3 50.0	0 .0	0 .0	6 100.0

総合人間学部	23	46	28	5	102
社会福祉学科	22.5	45.1	27.5	4.9	100.0
総合人間学部	0	7	2	0	9
臨床心理学科	.0	77.8	22.2	.0	100.0
大学院社会福祉	0	3	0	0	3
学専攻前期課程	.0	100.0	.0	.0	100.0
大学院臨床心理	2	5	1	0	8
学専攻修士課程	25.0	62.5	12.5	.0	100.0
合計	28	64	31	5	128
	21.9	50.0	24.2	3.9	100.0

### 教員の熱意

用いられた質問文と選択肢は以下の通りである。

「ルーテル学院大学の教員は、全体として授業に対して熱心だと思いますか」

- 1．非常にそう思う
- 2．まあまあそう思う
- 3．あまりそうは思わない
- 4．全くそうは思わない

この項目においても、本学の学生の評価は非常に高く、肯定的評価が約95%をしめる。

表11. 教員の熱意

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	教員の熱意				合計
	非常にそう思う	まあまあそう思う	あまりそうは思わない	全くそうは思わない	
総合人間学部	6	0	0	0	6
キリスト教学科	100.0	.0	.0	.0	100.0
総合人間学部	50	48	4	1	103
社会福祉学科	48.5	46.6	3.9	1.0	100.0
総合人間学部	4	3	3	0	10
臨床心理学科	40.0	30.0	30.0	.0	100.0
大学院社会福祉	2	1	0	0	3
学専攻前期課程	66.6	33.3	.0	.0	100.0
大学院臨床心理	3	5	0	0	8
学専攻修士課程	37.5	62.5	.0	.0	100.0
合計	65	57	7	1	130
	50.0	43.8	5.4	0.8	100.0

## 9. 学生が考えるよい授業とはどんな授業か

用いられた質問文以下の通りである。なお選択肢は下記の表12に記載してある。

「皆さんが考えるよい授業とは、どんな授業ですか」(複数回答可)

選択肢と選択した学生数は表12に示す通りである。どの項目においても学生の所属別の差は見られなかった。

「コミュニケーションをはかってくれる」という項目を選択した学生が非常に多いことは、当然のこととはいえ注目すべきで、本学としては「一人ひとりを大切に・・・」をモットーとしている以上、今後とも全教員が一層努力すべきことであると思われる。

表12 よい授業とは (母数 134)

選択肢	選択した学生数(%)
1. 教員の話し方がききやすい	97 (72.4)
2. 教員が質問に丁寧に答えてくれる	77 (57.5)
3. 教員の板書・OHP等が見やすい	59 (44.0)
4. 教員が学生とコミュニケーションを 活発にはかっている	95 (70.9)
5. 役に立つ知識・技能が習得できる	105 (78.4)
6. その他(具体的に記入してください)	55 (41.0)

第6の「その他」を選択して具体的な意見を書いた学生が4割あった。そのなかから、あまりにも当たり前のものや、上記の選択肢と重複するものをのぞいて、主なものを以下に列記する。なお類似の意見は一つにまとめた。

- \* 学生の発言を大切にせる授業
- \* 分からないことを質問しやすい授業
- \* 情報量が豊かな授業
- \* 現場のことに詳しい教員の授業
- \* 教員の学生に対する評価が納得できる授業
- ・ 現場の状況がリアルに伝わってきて興味を持てる授業
- \* 参加型授業
- \* 教えてやる、指導してやるという態度が露骨な授業はよくない。
- \* みんなが何を学びたいかをきちんと把握し、分かりやすく話す授業
- \* 板書ばかりの授業は考える暇がない。一方しゃべるだけの授業でも困る。バランスのとれた授業がよい。
- \* 眠くならないような工夫のある授業(例えば質問をあてるなど)。
- \* 重要なポイントを繰り返してくれる授業。
- \* 学んだことを実際にどう活用できるのか示してくれる授業
- \* 一方通行でなく学生の反応を見て授業展開をすること
- \* 時間配分がきちんとしている授業
- \* 私語、居眠り、内職、などの学生をきちんと指導する授業
- \* 問題を一緒に考えるような内容の授業。学生に主体的に考えさせるような授業。

- \* 福祉の現場で起きていることと、国、世界のレベルでの動向や最新の理論とを結びつけて話してくれるような授業
- \* 他の科目の授業との関連性が見える授業
- \* プリントをただ読み上げる授業でなく、プリントに書き込みながら聞く授業がよい
- \* 教員の熱意が感じられるような授業
- \* 私語を厳しく注意する授業（注：この意見は後述の自由記述回答の中にも多数あった。）

## 10. 授業に対する学生の取り組み

### 授業の予習、復習等について

用いられた質問文と選択肢は以下の通りである。

「あなたは普段、授業の予習、復習等、必要な準備をしていますか。」

- 1 充分している
- 2 まあまあしている
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

授業への学生の取り組みでは、表13に示すように、全体として、「充分している+まあまあしている」と「あまりしていない+全くしていない」とを比べるとほぼ同じ比率で、本学の学生の授業への主体的な取り組みは、よいとはいえない。

表13. 授業に対する取り組み

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	授業の準備				合計
	充分している	まあまあしている	あまりしていない	全くしていない	
総合人間学部 キリスト教学科	1 16.7	4 66.7	1 16.7	0 .0	6 100.0
総合人間学部 社会福祉学科	1 1.0	40 39.2	57 55.9	4 3.9	102 100.0
総合人間学部 臨床心理学科	1 11.1	6 66.7	2 22.2	0 .0	9 100.0
大学院社会福祉 学専攻前期課程	0 .0	3 100.0	0 .0	0 .0	3 100.0
大学院臨床心理 学専攻修士課程	2 25.0	6 75.0	0 .0	0 .0	8 100.0
合計	5 3.9	59 46.1	60 46.9	4 3.1	128 100.0

### 出席について

用いられた質問文と選択肢は以下の通りである。

「あなたは授業にどのくらい出席していますか」

- 1．ほぼ100%
- 2．75%以上
- 3．50%以上
- 4．50%以下

表14に示したように、出席状況は非常によく、「ほぼ100%」という回答が6割をしめる。大学院を含めて、ほとんどすべての回答者が75%以上出席している。この出席状況は、教員の日常の経験とも一致している。すなわち、本学学部では、4分の3以上の出席のものがほとんどで、それ以下の出席のものはごく少ない。欠席が多い場合の理由は、ほとんど本人の病気による長期欠席である。

表14．出席状況

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	出席状況				合計
	ほぼ100%	75%以上	50%以上	50%以下	
総合人間学部 キリスト教学科	3 60.0	2 40.0	0 .0	0 .0	5 100.0
総合人間学部 社会福祉学科	63 61.2	39 37.9	1 1.0	0 .0	103 100.0
総合人間学部 臨床心理学科	5 55.6	4 44.4	0 .0	0 .0	9 100.0
大学院社会福祉 学専攻前期課程	2 66.6	1 33.3	0 .0	0 .0	3 100.0
大学院臨床心理 学専攻修士課程	7 87.5	1 12.5	0 .0	0 .0	8 100.0
合計	80 62.5	47 36.7	1 0.8	0 .0	128 100.0

### 授業への取り組み

用いられた質問文と選択肢は以下の通りである。

「あなた自身の授業への取り組みについて自己採点すると」

- 1．大変よい
- 2．まあまあよい
- 3．あまりよくない
- 4．全くよくない

全体として授業への取り組みについての自己採点のレベルは高く、「大変よい+まあまあよい」が約8割をしめる。

表 1 5 . 授業への取り組み

注：上段 回答者数  
下段 構成比率

	授業への取り組み				合計
	大変よい	まあまあよい	あまりよくない	全くよくない	
総合人間学部 キリスト教学科	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	5 100.0
総合人間学部 社会福祉学科	11 10.7	71 68.9	20 19.4	1 1.0	103 100.0
総合人間学部 臨床心理学科	2 22.2	6 66.7	1 11.1	0 .0	9 100.0
大学院社会福祉 学専攻前期課程	0 .0	2 66.7	1 33.3	0 .0	3 100.0
大学院臨床心理 学専攻修士課程	2 25.0	6 75.0	0 .0	0 .0	8 100.0
合計	17 13.3	86 67.2	23 18.0	2 1.6	128 100.0

### 1 1 . 実習について（総合人間学部学部社会福祉学科のみ）

今回調査のこの部分は、総合人間学部社会福祉学科所属の学生のみを対象としており、しかもまだ実習にっていない学生（全体の約3分の1）は、当然のことながら無回答なので、そのことを念頭において結果を見ていただきたい。

#### 実習先についての希望は反映されたか

用いられた質問と選択肢ごとの回答数（比率）は以下の通りである。

「実習先を決定するにあたって、あなたの希望は反映されましたか」

1 . 充分反映された	3 6 ( 3 5 . 0 % )
2 . まあまあ反映された	2 1 ( 2 0 . 4 % )
3 . あまり反映されなかった	7 ( 6 . 8 % )
4 . まったく反映されなかった	3 ( 2 . 9 % )
5 . 教員によって異なる	1 ( 1 . 0 % )
無回答	3 5 ( 3 4 . 0 % )
計	1 0 3 ( 1 0 0 . 0 % )

実習先の決定には、いろいろな要素が絡んでいて、常に学生の希望を生かすというわけには行かないため、否定的な回答が10%近くを占める結果となっている。大学として今後努力すべきことのひとつであると認識している。

#### 事前学習について

用いられた質問と選択肢ごとの回答数（比率）は、以下の通りである。

「実習前の事前学習は充分行われましたか」

1. 充分である	24 (23.3%)
2. まあまあである	33 (32.0%)
3. あまりよくない	7 (6.8%)
4. 不十分である	1 (1.0%)
無回答	38 (36.9%)

この項目でも否定的な答えが少なくない。大学側としては、実習前の事前実習には最大限の努力をしていると考えているが、学生のニーズに必ずしも十分に答えていない場合があることを認識して、今後一層努力をしたい。

### 実習中の実習指導について

用いられた質問と選択肢ごとの回答数（比率）は、以下の通りである。

「実習中の実習指導は充分行われましたか」

1. 充分である	28 (27.2%)
2. まあまあである	27 (26.2%)
3. あまりよくない	4 (3.9%)
4. 不十分である	1 (1.0%)
無回答	43 (41.7%)

実習中の指導については、他の項目と比べて不満が少ない。しかし少数といえども、なお不満を感じている学生がいることに留意してゆきたい。

### 事後学習について

用いられた質問と選択肢ごとの回答数（比率）は、以下の通りである。

1. 充分である	15 (14.6%)
2. まあまあである	27 (26.2%)
3. あまりよくない	14 (13.6%)
4. 不十分である	2 (1.9%)
無回答	45 (43.7%)

事後学習については、否定的な回答が、他の項目と比べて多い。今後改善策に努めて行きたい。

## 12. 授業内容についての不満、改善すべき点（自由回答、複数回答可）

授業内容についての不満・改善すべき点について、学生が記入した内容をできるだけ忠実にリストアップしておく。報告執筆者の恣意によって取り上げないというようなことは一切していない。しかし、当然のことと思われる事項は省略した。なお具体的な科目名をあげての不満

や意見はここには掲載していない。別個に、個別に検討し、対応すべきであると考えられる場合には必要な措置を講ずることにしたい。

#### <カリキュラム、時間割などについて>

- \* 児童福祉分野の教員を増やし、科目も充実して欲しい。
- \* ソーシャル・ワーク・スーパービジョンを3年次に履修できるようにすれば、4年次に活かせると思う。
- \* 時間割の作成では、学年毎にまとめる工夫をして欲しい。
- \* キリスト教関係の科目を8単位とらなければならないのは厳しすぎる。4単位くらいでよいと思う。
- \* 一般ゼミには女性の問題を取り扱うのがあるが、卒業演習にはない。一貫して勉強したい学生には不親切だ。

#### <授業の内容、進め方などについて>

- \* 国家試験の科目は、なるべく教科書の内容に添ってやって欲しい。
- \* 全体的に学生とコミュニケーションをとりながら授業を進めて欲しい。他の大学との差別化を図るために。
- \* 教員が分かっているからといって、学生がすぐに理解できるとは限らない。きちんと説明をするようにして欲しい。
- \* 教員が一方向的にどんどん進めるのも困るが、ゆっくりしすぎるのも困る。
- \* 受講態度の悪い学生には、きちんと注意をして欲しい。(この意見多数あり)
- \* テキスト通りの授業はつまらない。(この意見多数あり)
- \* 板書ばかりの授業は考える暇がなくて困る。かといって全然板書がないと注意を集中できないので困る。
- \* 授業に遅刻する教員がいる。学生の熱意をさましてしまう。
- \* 板書の字が読みにくいのは困る。(この意見多数あり)
- \* ゼミの雰囲気固いのはストレスを感じる。やさしい楽しい雰囲気が欲しい。
- \* 聞き取れなかった内容を聞き直しても、ちゃんと答えてくれない教員がいる。
- \* 一般的に、OHP、パワーポイントなどの視覚教材をもっと活用して欲しい。
- \* 10年も前のビデオを教材に使う教員がいるが、できるだけ新しいものを使って欲しい。
- \* 重要な所は、重要だと、きちんと指摘して欲しい。
- \* 各科目の授業に、進路指導に関係することも含めてほしい。
- \* 各授業で、質問しやすい雰囲気作りにつとめてほしい。
- \* 授業のなかには、ほとんど学生主体に進めるものがあるが、そういう授業でも教員はもっと積極的に関わるようにしてほしい。
- \* 学生が調査発表をする授業では、教員のきちんとしたフォローがほしい。
- \* 90分の時間配分の悪い授業はこまる。グループ討議を取り入れるのはよいが、議論が活発になったところで時間切れ、ではフラストレーションをおこしてしまう。
- \* 時間不足でレジュメの内容が終わらない授業は困る。
- \* 授業の中で政治的な問題に触れ、特定の政治家などをあげて「くたばれ」というような発言をする教員がいる。やめて欲しい。
- \* 授業が時間通りに終わらないのは困る。

#### <フィードバックについて>

- \* 授業の終わりに書くフィードバックについてのコメントが欲しい。ちゃんと読んでもらっているのか分からない。また質問を書いたときは、何らかの形で回答が欲しい。

\* 毎回フィードバックを書くのもよいが、意見や感想を述べあう機会も設けて欲しい。

#### <出席確認などについて>

\* 出席は必ずとって欲しい。

\* 出席は授業の始めにとり、まじめに遅刻せずに来る学生に不公平にならないようにして欲しい。

\* 出席をとるために、長時間を使うのは避けて方法を工夫して欲しい。

\* 出席確認が授業の最後というのは止めて欲しい。真面目に最初からきている学生に不公平だ。

\* 出席確認をフィードバックや名簿に署名する、などのやり方で行う授業があるが、代筆が広く行われており、不公平だ。

#### <実習について>

\* 実習は、やるのかやらないのか、直前までわからないのは困る。学生から申し出がないとそのまま当日になってしまうのかと不安である。

\* 実習受け入れ側は、学生の立場について理解をして欲しい。無理な注文をされ困ることがある。

\* 実習受け入れ施設・機関には、学校側で最初に挨拶しておく、などの配慮が欲しい。

#### <その他の意見>

\* 大きい教室なのにマイクを使ってくれない教員がいる。

\* 教師の思想の押しつけと思われるような発言は慎んで欲しい。

\* 授業によっては、配布プリントや資料がおおく、費用の負担がたいへんだ。

\* 文化祭の準備期間を延長して欲しい。

\* 非常勤の教員のなかにはマイクの使用に不慣れな人が見受けられる。配慮して欲しい。

\* ルーテル学院大学に入って一番残念だったのは、ある授業で、教員が今年の入学者は程度が低いと発言したこと。

\* 非常勤講師の採用の際は、人格面についても、きちんと調べて欲しい。

\* 心理テストの器具の貸し出しにもっと融通をきかして欲しい。

\* 指定の参考書の値段が高かったり、入手が困難な場合がある。注意して欲しい。

\* 事務の人の名前が分かるようにして欲しい。(名札を付けるなど)

\* 事務の人の評価も学生にきいて欲しい。

### 13. こうすればルーテル学院大学はよくなるという提案(自由記述、複数回答可)

他の質問への回答とかなり重なる部分があるが、そのような意見も省略せずに掲載する。なお、他の質問のところでも書いたことであるが、あまりにも当然な意見は省略した。また具体的な内容を伴わない単なるコメントのような意見は採り上げていない。個別な科目や教員、あるいは職員への批判については、真偽を確かめることができないこと、また人権への配慮からこの報告書ではいっさい記載していない。これらについては別個に集約し、大学として慎重に検討し、必要な場合には、適切と思われる措置を執ることになっている。なお類似の意見は集約して記載した。

以上に記した場合を除いて、報告書執筆者の個人的な判断で掲載を省略することはいっさいしていないことをお断りしておきたい。

### <カリキュラム、授業内容、時間割などについて>

- \* 卒業論文、卒業演習についてのアンケートはもっと早くして考える余裕を与えて欲しい。
- \* 保育士の資格取得のための体制の整備を望む。
- \* 社会福祉士などの国家試験対策をより充実して欲しい。
- \* 国家試験対策の授業をもっと増やして欲しい。
- \* 有名な先生がいるのはよいが、そのような教員の授業がよいとは限らない。授業の質を高めるような工夫が欲しい。
- \* 各学年の必修科目の時間割が、同じ日の1時限と4時限だったりする。工夫して欲しい。
- \* キリスト教学科の科目に他の宗教（仏教、神道など）に関する科目を加えて欲しい。
- \* グループ討議を活用する授業を増やすなどの工夫が望まれる。
- \* 遅刻や途中退出の学生、授業中に私語をする学生などへの強い指導を望む。（この意見多数）
- \* 実習をした分野とそうでない分野についての知識の差を感じる。「老人福祉の実際」のような科目を、障害福祉の分野についても取り入れて欲しい。
- \* 実践を取り入れた授業（たとえばケアプランの作成など）を増やして欲しい。SSTを例に取ると、学生が実際にリーダーの役割を担う体験をするので、技術を学んでいるという実感が持てる。
- \* ジェンダー関係の科目をぜひおいて欲しい。
- \* 臨床心理学科の基礎科目を増やして欲しい。
- \* 公開講座の社会人の枠を広げて、社会的経験のない学生への刺激として欲しい。
- \* 学科、或いは専攻毎に教員間の連絡を密にして、授業の内容に重複がないようにして欲しい。
- \* 公務員試験を受ける学生のために、公務員試験対策講座を開設して欲しい。
- \* 専門科目の非常勤講師に、あまり適切でない人がいる。来年度は代わってもらいたい。
- \* 学生の教養を高めるために教養科目を充実して欲しい。何もかも福祉、というのはよくない。
- \* 時間割の編成にあたっては、学生の立場をできるだけ尊重してほしい。現状はあまりにも配慮がなすすぎる。（この意見多数）
- \* 視覚障害のある学生への配慮が足りない。たとえば、点字プリントの配布の不十分なこと、休講の知らせが掲示のみ、など
- \* 卒業演習に、ぜひ女性問題を扱うものを加えて欲しい。

### <就職活動の支援について>

- \* 就職説明会をもっと開催して欲しい。
- \* 先輩達の就職先、あるいは実習先などを知ることができれば、進路を考える際の参考になると思う。
- \* 全体に就職についての援助が足りないように思う。特に一般企業への就職を望む学生への指導を充実すべきだと思う。（この意見多数）
- \* 就職活動援助専任の職員をおいて欲しい。また就職活動への支援を強化して欲しい。

### <図書館について>

- \* 図書館の閉館時間が早すぎる。
- \* 院生の場合には、グループ閲覧室の利用を二人以上としてもらいたい。心理テストのために。
- \* 図書館の本の数を増やして欲しい。
- \* 図書館の日曜日の開館、夜間開館時間の延長を希望する。

### <共用パソコンについて>

- \* パソコン室のパソコンでインターネットが利用できるようにして欲しい。

- \* 学生は誰でもパソコン室を利用できるようにして欲しい。パソコンを持っていない学生が困っている。(この意見多数)
- \* 共用パソコンを増やし、また最新のOSにして欲しい。またプリンターを整備して、ゼミなどでの配付資料のプリントができるようにして欲しい。

#### <設備などについての意見>

- \* ロッカーを学生全員分用意して欲しい。
- \* パンやおにぎりに自販機が欲しい。
- \* 体育館が欲しい。
- \* 暖房のよく効かない教室がある。
- \* クリスマスの時期には校内の要所にデコレーションをほどこすなどの工夫が、学校をより楽しい場所にすると思う。
- \* 各教室の机の間隔が狭すぎる。また机が貧弱ですぐに動くので困る。
- \* 屋根付の駐輪場を整備して欲しい。

#### <食堂について>

- \* 食堂での私物の散乱は見苦しい。そのためにもサークル室の整備を望む。
- \* 食堂のメニューをもう少し増やして欲しい。
- \* 学生間の交流をより円滑にするために、食堂で長時間お茶が飲めるようにして欲しい。

#### <その他の意見>

- \* 出席をもっと厳しくすべきだ。
- \* 個別の授業について、学生が自由に意見を表明できるように、投書箱を常時的に設置してはどうか。
- \* ルーテル学院のキャラクターをより大切にすること。すなわち、信仰、成長、福祉。
- \* 冬のチャペルは寒すぎる。礼拝に似つかわしくない服装でなければならない。
- \* 文化祭への教員の参加が少なかった。教員の熱意が学校をよくするのに。
- \* 文化祭の準備期間をもっと長くして欲しい。
- \* 休講の掲示はホームページに掲載するようにして欲しい。(この意見多数)
- \* 教務課、学生課の学生への対応があまりよくないと思う。改善して欲しい。
- \* 学生が参加しやすいちょっとした行事をふやし、学生の参加意欲を高めるようにしてはどうか。
- \* 小規模大学の特性をより高めて、アットホーム的な要素をふやし、社会的にアピールしてはどうか。
- \* 礼拝に参加する学生があまりにも少なすぎる。何か工夫ができないか。
- \* 購買部を設けて欲しい。
- \* 教員が、会議や雑務でいそがしいため、学生との勉強会をもつなど、学生との接触が少ないのは残念。教員の負担を減らしてあげて欲しい。
- \* 教員と教務課の連絡が不十分で、学生が困ることが少なくない。改善して欲しい。
- \* 大学院生には、コピー機のカードを支給して欲しい。
- \* 学生のサークルを増やして欲しい。
- \* 定期的にこのようなアンケートを実施してもらいたい。(この意見多数)

(以上)

< あとがき >

この学生アンケートは、ルーテル学院大学・自己評価委員会が企画し、事務局総務課が実施にあたり、集計は外部の集計業者に委託して行った。報告書の執筆にあたったのは、自己評価委員会委員の前田大作（大学院教授、社会福祉学専攻主任）である。

非公開部分を含むため、報告書の原稿を複数の委員が回覧して不適切な表現や誤りを可能な限り除去するという作業ができなかった。したがって、本報告書に何か不適切な部分、あるいは誤りが発見された場合には、その責任はすべて執筆者の前田にある。